



華麗なる図書館利用者のための

Cool Librari

# クールリブRARY

講座

## カジのうら若き青春黙示録

文/カジ

### 「冗談はよっこり〜ジャーナー」

社会科担当の安保（あんぼ）先生の決めた詞である。50分授業のおよそ9割を雑談で終わらせる安保先生のスタイルは、設立からまだ間もなく、難関大学受験合格実績を伸ばしたい我が風林館高校（仮名）の教師陣にとって目の上のたんこぶであったに違いない。当時高校1年だった我々から見ても、目に余るほどのフリースタイル具合であった。「年配教師ということを盾に好き勝手やっている」多くの生徒がそう感じていたはずだ。

風林館高校では中間期末試験の問題を、各学年の教科担当教師が作成する。当時の教師たちはワープロを駆使し、それぞれ独自の問題を作成しており、大学受験を意識したかなりマニアックなものが出題される傾向があった。

そしてある期末テスト、日本史の試験時間に事件は起きた。テスト用紙が配布されしばらくは各々真剣に問題を読み、カリカリと回答を書き込んでいたのだが、数分後、生徒たちの手が次々と止まった。そして生徒の一人が手を挙げ、試験官の教師にこう告げる。

「先生、テストの下に答えが書いてありますー」

ざわ… ざわ…

件のテストは、ワープロで作ったものではなく、市販の問題集をつなぎ合わせてコピーしたものだ。そのため、答えがページ下段の余白部分に逆さまになって掲載されていたのである。テスト作成者はもちろん、あの安保先生だ。

試験官は答えの載っていない問題を解くように指示し、その場を離れた。

数分後、安保先生が悪びれた様子もなく現れ、にこやかにこう放つ。

「一部答えが書いてある問題がありますけど、見ないでやってくただわら☆」

まさかのテヘペロである。「見ないで」って言われても見るし。

こうして「答え書いてあるけど見ないでやってください事件」は平穩に幕を閉じたのだが、次のテストもまた、問題集の貼りあわせで臨む安保先生に、戦後復興を支えてきた日本人のたくましさを重ねあわせてしまっつのは、恐らく自分だけであろう。今は昔のものがたり。

ページ上段中央のスペースは何ですか？

『アジアの奇跡』の異名を持つ中田英寿は、オープンスペースに絶妙なキラーパスを出すことで、得点のチャンスを作り出す天才。一方カジは、無駄なスペースでフガフガなページレイアウトを作り出す天才。両者の間に大きな差はない。

